

令和 6 年度東京都自立支援協議会
(第 1 回)

令和 6 年 6 月 1 0 日

東京都心身障害者福祉センター

(午後１時１６分 開会)

○外川課長 それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和６年度東京都自立支援協議会第１回本会議を開催いたします。

私は、当協議会の事務局を務めさせていただきます、東京都心身障害者福祉センター地域支援課長の外川達也と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料のご確認をお願いいたします。次第に資料の一覧を掲載してまいります。

資料の１から８まで、そして、参考資料を本日１から５までおつけしてございます。あとは、委員の皆様の上には、そのほか会場の配置図、そして、グループ討議の進行についてというペーパーと、１枚めくっていただいて、チームのキャラクターについてのご説明と、グループ討議用のグループのほうのご紹介というような３枚を机上に配付させていただいております。これにつきましては、後ほどグループ討議で十分ご活用していただければというふうに考えております。

以上ですけれども、不足や落丁等がありましたら、お気づきのときにお申出ください。

繰り返しになりますが、本日はオンラインで１８名の方の傍聴がございます。なお、本日の傍聴の皆様には、事前ご案内のとおり、会議途中で行われるグループ討議につきましては非公開とさせていただきますので、ご了承をいただきたいと思います。

また、本日記録のために写真を撮影させていただきますとともに、速記を手配しております。

本会議の資料及び議事録につきましては、後日ホームページで公開もさせていただきますので、これについてもご了承のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、東京都心身障害者福祉センター所長の富山よりご挨拶申し上げます。よろしくお願いいたします。

○富山所長 皆さん、こんにちは。東京都心身障害者福祉センター所長の富山でございます。

本日は、お忙しい中、当協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。この後は座って失礼いたします。

皆さんにおかれましては、日頃から、東京都の障害者福祉の取組にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

皆さんご承知のとおりではございますが、この協議会は、障害者等への支援の体制の整備を図るため、障害者総合支援法に基づきまして、地方公共団体に設置するものでございます。東京都の協議会は平成１９年度に設置されまして、平成２４年度から当センターに事務局を移し、現在に至っております。

今年度は、昨年度から始まりました第８期目の取組期間の締めくくりの年となります。

さて、東京都は、令和６年度から令和８年度までの３年間を計画期間といたします、新たな東京都障害者・障害児施策推進計画、こちらを取りまとめました。新たな計画の中には、東京都自立支援協議会で役割につきまして、先進的取組事例の紹介や、障害当事者や家族が参画することの重要性を周知するなど、地域の自立支援協議会の活性化を図り、支援体制等の充実につなげるための支援を行うことと位置づけられました。

これは、この間、都の協議会が進めてまいりました当事者参画の推進と、協議会の活性化という二つの軸とも重なるものでございまして、本協議会委員の皆様を中心とした日頃の取組の成果が評価されたものと大変うれしく思っております。

今年度の第１回となります本日の本会議では、令和５年度版の東京都内の自立支援協議会の動向の調査結果や、東京都からの報告とともに、令和６年度の活動方針や年間計画などをお語りする予定としております。

障害のある方、ない方、それぞれのお立場から、障害当事者の参画の促進や、地域の協議会

活動の活性化に向けた活発なご議論をお願い申し上げます。

引き続き、特段のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。甚だ簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

○外川課長 ありがとうございます。

次に、委員の皆様をご紹介します。資料１に本協議会の名簿がございます。名簿の順にご紹介申し上げますので、一言ずつお願いいたします。

それでは、初めに協議会副会長、ＣＩＬちょうふ代表、秋元妙美委員です。

○秋元副会長 秋元です。昨年に引き続き、よろしくお願いいたします。

○外川課長 よろしく願いします。

社会福祉法人多摩棕櫚亭協会、障害者就業・生活支援センターオープナー、施設長、荒木浩委員です。

○荒木委員 オープナーの荒木と申します。よろしくお願いします。

私は、障害者就業生活支援センターという都内にある６センターの代表として参画させていただいております。よろしくお願いします。

○外川課長 よろしく願いします。

協議会会長、武蔵野大学人間科学部人間科学科教授、岩本操委員です。

○岩本会長 岩本でございます。引き続きよろしくお願いいたします。

○外川課長 よろしく願いします。

大田区立障がい者総合サポートセンター、相談支援事業所管理者、神作彩子委員です。

○神作委員 神作でございます。

基幹相談支援センターと相談支援事業者ということで参画させていただいております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○外川課長 よろしく願いします。

世田谷区北沢総合支所保健福祉センター、健康づくり課、保健相談係長、北川多恵子委員です。

○北川委員 北川と申します。

特別区保健師業務連絡会のほうから代表で出させていただいております。よろしくお願いします。

○外川課長 よろしく願いします。

社会福祉法人原町成年寮、サザンクロスかつしか所長、久保玄委員です。

○久保委員 どうもこんにちは。原町成年寮の久保です。

主にグループホームの業務をやっております。今年度もよろしくお願いいたします。

○外川課長 よろしく願いします。

社会福祉法人ソラティオ、精神障がい者相談支援事業所コンパス、小阪和誠委員です。

○小阪委員 小阪と申します。よろしくお願いいたします。

私は、ふだんは精神障害をお持ちの方を対象とした相談支援事業所に勤務しております。私自身も精神の当事者の立場になります。よろしくお願いいたします。

○外川課長 よろしく願いします。

大田区福祉部調布地域福祉課、身体障害者支援担当、後藤憲治委員です。

○後藤委員 後藤と申します。

私のほうは、大田区の区部の身体障害者の福祉司会のほうから出席させていただいております。よろしくお願いします。

○外川課長 よろしく願いします。

協議会副会長、日本社会事業大学福祉マネジメント研究科教授、曽根直樹委員です。

○曽根副会長 曽根です。

埼玉県民なのですが、都県境を越えて参加させていただいています。よろしくお願いします。

○外川課長 よろしくをお願いします。

社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会、豊島区立目白福祉作業所、高橋薫委員です。

高橋さん、ゆっくりどうぞ。

○根間委員 高橋さん、さっきの調子でいいのよ。

○村中委員 ゆっくりでいい。

○高橋委員 高橋薫です。よろしくお願いします。

○外川課長 よろしくをお願いします。

次に、社会福祉法人東京緑新会、地域生活相談室おあしす、仲田素直委員です。

○仲田委員 地域生活相談室おあしすの仲田です。

私は、多摩療護園という入所施設が母体の相談支援なのですが、入所施設と地域との間で相談支援をやっています。よろしくお願いいたします。

○外川課長 よろしくをお願いします。

東京都障害者施策推進部、地域生活支援課長、中山佳子委員です。

○中山委員 4月より障害者施策推進部のほうで地域生活支援課長をしております中山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○外川課長 よろしくをお願いします。

公益社団法人東京都医師会理事、西田伸一委員でございますが、本日は欠席となっております。

認定特定非営利活動法人多摩草むらの会、パソコンサロン夢像、生活支援員、根間あさ子委員です。

○根間委員 多摩草むらの会に所属しております根間と申します。今年もよろしくお願いします。

私の働いているところは、就労継続支援B型の事業所と、あと、相談支援センターでも働いております。私自身も障害の当事者でございます。よろしくお願いします。

○外川課長 よろしくをお願いします。

特定非営利活動法人クローバー、事務局長、藤井亘委員です。

○藤井委員 藤井といいます。NPO法人クローバーの藤井です。

豊島区で主にショートステイとか居宅介護とか、そういう事業をやっております。今回、隣にいる高橋委員のサポートも含め、参画させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

○外川課長 よろしくをお願いします。

北区福祉部障害者福祉センター所長、宮崎修一委員でございますが、本日はご欠席となります。

府中市福祉保健部障害者福祉課長、向山昇剛委員です。

○向山委員 皆様、こんにちは。府中市障害者福祉課長の向山と申します。

今年度より委員を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○外川課長 よろしくをお願いします。

社会福祉法人原町成年寮、生活介護事業所シャングリラ、村中友江委員です。

○村中委員 よろしくをお願いします。

○外川課長 よろしくをお願いします。

協議会副会長、社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会副理事長、森山瑞江委員です。

○森山副会長 こんにちは。手をつなぐ育成会の森山でございます。

私は、知的障害者の親でもございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○外川課長 よろしくをお願いします。

中央区福祉保健部障害者福祉課、相談支援係長、龍佑企子委員です。

○龍委員 中央区の龍と申します。よろしくお願いします。

2年目になります。身体、知的、精神全ての相談支援を担当しております。よろしくお願いします。

○外川課長 よろしく申し上げます。続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

東京都心身障害者福祉センター所長の富山でございます。

○富山所長 富山です。よろしくお願いいたします。

○外川課長 東京都心身障害者福祉センター地域支援課課長代理の井領でございます。

○井領課長代理 井領です。今日はよろしくお願いいたします。

○外川課長 改めまして、東京都心身障害者福祉センター地域支援課長の外川です。よろしくお願いいたします。

それでは、ここからの議事進行については、岩本会長をお願いしたいと存じます。

初めに、一言ご挨拶をお願い申し上げます。よろしくお願いします。

○岩本会長 岩本です。改めまして、よろしくお願いいたします。

先ほど所長のご挨拶でも紹介していただきましたけれども、第8期の2年目になります。第8期のテーマは、ちょうど1年前にいろいろこの中でも、なかなかしっくりする言葉がないというところで、悩みながらつくり出したテーマでしたけれども、協議会において、合理的配慮による当事者の主体的な参画を推進するとともに、地域課題への取組過程の共有により、地域協議会活動の活性化を図るという非常に長いテーマだったんですけれども、思いとしては、本当に当事者の主体的という言い方がいいのか分からないんですけれども、本当に参加したいな、言いたいなと思えるような協議会の在り方、それから、各地域の協議会が、それぞれ情報共有しながら活性化していく、地域課題に取り組んでいくというような思いを込めたところです。

大きなテーマですので、なかなか1年で進むところというのは難しいところですが、今年度は第8期の2年目ということで、またこれから、今年度の活動方針などについてご協議いただくことになっております。どうぞよろしくお願いいたします。

なかなか協議会の進め方などでも課題もあったり、ご意見もいただいているところですが、前年度ですかね。少し座り方を変えたりして、皆さん、いかがでしょうか。やっぱり口の字型よりも、こういうふうなまとまった形の方が話しやすいのではないかと、このところなんですけれども、私は、皆さんの中に入れないで、ちょっと心もとないようなところで座っております。

また、この間、本当に本会議を準備いただきました事務局の皆様、ありがとうございます。また、先ほどの動向集ですね。これも皆様のいろいろご意見をいただきながらまとめていただきました。ぜひご覧になって、今後の東京都の協議会もそうですし、皆様が日頃参画していらっしゃる地域の協議会、地域の活動にも活かしていただきたいと思います。と思っております。

また、この動向集のところに、皆さん、しおりがあるのが分かりますか。しおりが挟んであって、非常にプレゼントをもらったみたいでうれしいのですが、今回も高橋委員のご提案で、グループも本当にかわいらしいイラストと人名をつけていただいております。

今日はグループ討議もありますので、限られた時間ではありますが、皆様のご意見をたくさんいただいて、今年度の活動のスタートをしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。座らせていただきます。

それでは、次第に沿って議事を進めさせていただきたいと思っております。本日は、報告事項が四つ、協議事項が三つございます。

本日の会議は、先ほども申し上げましたけれども、途中グループ討議を挟み、16時終了予定です。ちょっと長丁場になりますが、スムーズな会議進行にご協力のほど、どうぞよろしく

お願いいたします。

また、ちょっと大変だと思いますが、資料説明については、できるだけ簡潔にお願いしたいと思います。

初めにですけれども、令和５年度版、こちらですね。東京都内の自立支援協議会の動向調査結果について、事務局のほうからご報告をお願いいたします。

○外川課長 それでは、資料２をご覧ください。

本日、机上に令和５年度版の東京都内の自立支援協議会の動向集をお手元にも配付させていただいております。

令和５年度は、協議会活動の活性化、そして、当事者参画推進という、この二つの視点から、各グループで闊達な意見交換をしていただきまして、それらの結果を踏まえまして、継続している調査につきましても、設問項目を少し追加をさせていただいたりしました。

また、新規設問に加えて、都協議会活動で昨年度取り上げてきた、地域自立支援協議会における先進的な事例や、障害当事者の発表の要旨をコラムとして掲載させていただきました。

今回の調査結果を少し簡潔に幾つかポイントとして述べたいと思います。

まず、地域課題の把握というのをどういうふうに行っているかということ、今回指標として入れてみたのですが、全体会・専門部会・各種連絡会等の活動を通じて、地域課題を把握しているというところが多かったんですけれども、アンケートやヒアリングなどを行って把握しているというところが約４割あったということが一つございました。

また、今回から、各地域自立支援協議会における当事者委員の障害種別ごとの人数を集計するような形に改めておりまして、その結果、身体障害の方が１３０人、そして、精神障害の方が３６人、知的障害の方が２２人、難病等の方が７人、高次脳機能障害の方が４人、この地域の自立支援協議会の当事者委員としてご活躍されているということが分かりました。

当事者が委員として就任している区市町村数は４８でございました。ただ、全体会における当事者委員数とその割合でございまして、令和４年度の１２０人から１１４人ということで、若干低下しておりました。

一方、この地域自立支援協議会活動が令和４年度と比較して「活性化した」、あるいは「ある程度活性化した」と回答した区市町村ですけれども、全体の約７０％を占めるという結果になりました。

この「ある程度活性化した」という理由ですけれども、この動向集の中には一つ一つ丁寧にあるのですけれども、主にはやはりコロナが明けて、集合開催にすることができたというご意見であったりとか、委員の人数を増やして、そこに当事者委員にも加わっていただいたというようなところであったりとか、あるいは福祉計画の策定の時期なので、従前よりも多く集まるという機会を持つことができたとか、そのような様々な意見がございました。

次に、最後になりますけれども、基幹相談支援センターが２か所増えておりまして、さらに地域生活支援拠点などが５か所新規に開設されているということが分かりまして、相談支援体制の整備が少しずつ進んでいるなということが感じ取れる結果となりました。

昨年同様、各区市町村から回答のあった個票の表記などにつきましては、原文のまま掲載しております。また、動向集全文のデータを含め、自立支援協議会の取組につきましては、心身障害者福祉センター、当センターのホームページでも情報発信をさせていただきたいと思っております。

報告は以上となります。

○岩本会長 ご報告ありがとうございました。

ただいまのご報告について、何かご意見、ご質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうかね。ちょっとボリュームが多いので、後でまたゆっくりご覧になっていただきながら、内容を活かしていただきたいと思います。

それでは、次に、参考資料について、東京都からご説明をお願いいたします。

○外川課長 それでは、参考資料の1をまず、ご覧ください。

先ほど冒頭で、私どもの所長からもお話があったかと思いますが、東京都では、令和6年度から令和8年度までを計画期間とする新たな東京都障害者・障害児政策推進計画を取りまとめております。

本日は、自立支援協議会に関する記載を抜粋させていただきました。この中には、自立支援協議会は、関係機関などの緊密な連携の下、地域での課題を共有しながら、協議を行い、障害者等の支援体制の整備につなげていく重要な役割を担っており、東京都は引き続き、先進的取組事例の紹介や、障害当事者や家族が参画することの重要性を周知するなど、区市町村の協議会の活性化を図り、支援体制等の充実につなげるための支援を行う必要があるとされております。

当協議会の意見が反映されたものとなったのではないかと考えております。

参考資料の2と3につきまして、中山委員のほうから少しご説明を頂戴したいと思っております。よろしく申し上げます。

○中山委員 はい。私のほうから、参考資料の2と3についてご説明させていただきます。

まず、参考資料の2でございます。東京都障害者相談支援体制整備事業でございます。こちらは事業内容は二つになってございます。

一つ目は、障害者の地域における相談支援の総合的な窓口であります基幹相談支援センターを始めるときや、既に運営している中で問題が起こった際に、アドバイスをできる知識を持った方をアドバイザーとして都が区市町村や、基幹相談支援センターに派遣いたします。

二つ目は、相談支援についての研修や意見交換を実施するものでございます。この事業ですが、令和5年度の実績は練馬区さん、世田谷区、北区、武蔵野市、青梅市、日野市、稲城市、西東京市にアドバイザーを派遣いたしました。派遣回数は計23回でございます。

また、令和6年度は、スケジュールでございますけれども、5月に意向調査をいたしまして、7月からアドバイザーの派遣を始める予定でございます。なお、派遣の終了予定は翌年、令和7年2月の予定でございます。

続けて、参考資料3の事業に移らせていただきます。特定相談・一般相談連携機能強化支援事業でございます。こちらは本年度、令和6年度の新しい事業になります。

目的といたしましては、施設や精神科病院等からの地域移行を進めることが目的です。

相談支援事業者様が行う地域移行に関する業務でして、これまで報酬が出ていなかった業務が対象になります。利用者一人につき1万2,000円、ひと月当たりですが、補助をする予定でございます。

また、補助対象となるイメージですけれども、例えばサービスを利用するときに、ご本人の意向を確認すること。また、ご家族と調整すること。施設を退所した後や、精神科病院から退院した後利用できるサービスについて、施設や精神科病院に入居しているうちに調整することなどでございます。

補助は、右下の事業イメージにあるとおり、東京都は区市町村に補助をさせていただき、区市町村から特定・一般相談支援事業者へという流れになります。6年度の予算額は約1億2,000万円となっております。

こちらは、5月の区の課長会でも区のほうに紹介させていただいたものでございます。新規事業でございますので、ぜひ活用いただければというふうに思っているところでございます。

私からの説明は以上でございます。

○外川課長 ありがとうございます。

参考資料4につきましては、令和6年度の東京都における障害者総合支援法等関連研修に係る研修検討体制の構造図となっております。

この研修検討会の設置要綱に基づきまして、これらの研修検討体制で進められた協議結果、検討結果につきましては、2月に行われる第2回本会議でも報告させていただくことになっております。どうぞよろしくお願いいたします。

こちらの資料で、相談支援従事者研修検討会の座長ですけれども、今年から、明星大学教授の吉川かおり氏に交代をいたしました。吉川かおり氏は、立川市の自立支援協議会の会長職も務めている方でございます。

参考資料5は、この協議会の要綱となります。

簡単ではありますが、私からの説明は以上になります。

○岩本会長 ご報告ありがとうございます。東京都の取組等を含めた参考資料のご説明でした。特に質問等はよろしいでしょうか。

はい。こういった新たな取組があるということで、それぞれの地域のほうの活用に向けて、働きかけていただければと思います。

では、協議事項に入りたいと思います。また戻っていただくのですね。資料3にございます、令和6年度東京都自立支援協議会の活動方針(案)等について、事務局からのご説明をお願いいたします。

○外川課長 初めに、資料3をご覧ください。

これまで都の協議会では、地域移行・地域生活支援に成功した事例に焦点を当ててきましたが、昨年度の第2回本会議でのご意見等を踏まえ、令和6年度は、障害当事者の体験や視点から見えてくる地域移行・地域生活支援の実現の困難さなどや、その支援課題に着目して、年間を通した取組を進めていったらどうかと考えています。

こうした取組を進める上での活動方針といたしまして、「障害当事者から見た地域移行・地域生活支援の課題を共有する」ということを提案したいと思っております。

続きまして、資料4をご覧ください。資料4には、令和6年度の活動計画(案)をお示ししています。

本日の本会議と、翌年の2月14日に本会議を開催します。そして、協議会として活用できる情報発信・情報共有のためのツールとして、6月の動向集の発行、本日発行させていただきました。次に、7月頃と、交流会の終わった後の10月頃に行う自立支援協議会担当者連絡会、そして、夏、8月26日に行う地域自立支援協議会交流会、12月9日に行う東京都自立支援協議会セミナーがございまして、これらを当事者参画推進グループと協議会活性化グループが活用していくということが今年度の活動計画となります。

次に、資料5をご覧ください。

今の説明の中でも少し触れましたが、情報発信、情報共有のためのツールとして、今年度からこの協議会の担当者連絡会というものが少し加わってございます。

資料5には、令和6年度の協議会活動の考え方をお示ししました。令和5年度、昨年度と同様、活動方針を年間を通してのテーマとさせていただきまして、その下にある第8期のスタート時に確認したそれぞれのグループ編成で臨ませていただきたいと思います。

資料6が最後になります。資料6には、この情報発信のツールをまとめてありまして、この地域自立支援協議会交流会が8月26日月曜日の13時から、茗荷谷の研修センターで、集合形式で開催したいと思っております。

地域自立支援協議会の事務局であったり、今年度も専門部会までを含む委員の皆様にもお声かけをお願いしていくということで考えておりまして、規模は80名程度を考えております。

12月9日月曜日の13時20分から、都庁第一本庁舎5階の大会議場で、東京都自立支援協議会セミナーを行います。基調講演の後、障害当事者や、その支援者の方々からリアルな声を発信していただきたいと思います。

また、年末年始にかけて、大体成人式ぐらいまでの期間を撮影したセミナーの動画配信を行

っていくというふうに考えております。

最後に、ここに新たに、今回ツールとして加えさせていただいた自立支援協議会担当者連絡会が入っております。こちらの連絡会は、いずれもオンラインで実施をさせていただきます。時期といたしましては、交流会の前、そして、セミナーの前ということで考えておりまして、それぞれで行っていくということにしております。

最後に、動向集について、今年も引き続き取り組んでいくということで考えております。

以上が活動方針などということで、関連するものを含めて一括してご協議いただければと思っております。

事務局からの説明は以上でございます。

○岩本会長 ご説明ありがとうございます。

今年度の活動方針（案）ということですので、ここで皆さんにご意見等もいただきながら、これを確定にこの会議ではするというような、そういった目標があるんですけども、後半のグループ討議は、交流会やセミナーを具体的にどういう形がいいだろうかということをテーマにお話をさせていただきますので、この協議会としての活動方針については、ここがお話、ご意見をいただく場になっておりますので、ぜひご質問やご意見をいただければと思います。

少し議事が早めに進行しているということもございますので、ちょっとこの場でいきなり意見って、もしかしたら言いにくいかもしれないので、3分ほど各グループ、何か少し近くの方とおしゃべりして、それからご意見をいただくほうがいいような気がするので、それぞれの副会長さん、ちょっと投げかけていただいて、少しグループで出てきたら、そういったご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

5分ぐらい。協議時間5分って短いのですが、ちょっと5分ぐらい早めに進んでいますので、3、4分ですかね。少し皆さんで温めていただければと思いますので、すみません。副会長さん、投げかけをお願いしていいでしょうか。

お時間が来ましたらお声かけさせていただきますので、そこで挙げたご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。予定になくて申し訳ないのですが、お願いします。

（協議）

○岩本会長 すみません。協議というよりも、ちょっとアイスブレイク的な感じだったかなと思うんですけども、何か具体的に、この提案について、ここはもっとこうしたほうがとか、ここはちょっと分かりにくいんだけどというようなご意見は挙がりませんでしたでしょうか。

秋元副会長のところはどうでした。

○秋元副会長 今年度は、困難なことに對して、ちょっと注目してみるというのがいいのではないかという意見がありました。

○岩本会長 はい。ありがとうございます。なかなかそれをどう表現しようかと、すごく悩んで、そういう思いを今度は活動方針（案）の言葉には、コメント見るのですけれども。はい。そういったフォーカスを当てるところはいいのではないかとということで、ありがとうございます。

曾根副会長のところはいかがでしたでしょうか。

○曾根副会長 やっぱ困難さ、課題に着目するということがいいのではないかというお話なのですけれども、実際にどういう困難さや課題があるのですかと聞いたところ、一つは、地域移行した後の自立生活援助があまり使われていないというのはなぜかとか、あと、そもそも地域移行をする事業者が自治体の中にないか、あと、入所している人にアンケート調査をして、希望者は少し把握できたということなのですが、なかなかその後、具体的に地域移行に結びつけるという段階に至っていないということではないのですか。受皿を見つけるのが難しい。そういうお話がありました。

○岩本会長 はい。ありがとうございます。本当に課題というのが非常に広いので、具体的にこういうイメージ化を図るというようなところで、幾つかご意見をいただけたということによろ

しいでしょうか。

○曾根副会長 はい。ここは自治体職員中心チームなので、課題が出せなくて。

○岩本会長 なるほど。先ほど東京都のほうでご説明いただきました、この相談連携機能強化支援事業などもちょっと有効に活用できればというようなところかと思いました。ありがとうございます。

森山副会長のグループはいかがでしたでしょうか。

○森山副会長 やはり実現の困難さというふうになると、なかなかうまくいかなかった人という感じになって、探し出すというか、出ていただくのに難しいのではないかなと、そういう意見が出ました。

なので、移行するときもですが、移行してからも、なかなか困難なプロセスとか、それを支援者とともに乗り越えているという、今も乗り越えていっている、継続している人という人をお話ししていただくと、皆さんの励みになるというか、ヒントがたくさんあるのではないかなという意見が出ました。

以上です。

○岩本会長 ありがとうございます。

今のお話は、会長、副会長の事前の打合せでも出てきて、課題とか困難さというのは、固定ではないので、どんどん変わっていくものだというふうなところで、まさに今大変だという局面のある方に、そこをお話いただくことで、その後、変化していく中で、それは話してよかったのかどうかとか、そういったこともあるんじゃないかとか、そういったお話をいただく方が、後々どうだったかなというふうな、ネガティブな体験にならないということも大事ではないかというような話も出ましたので、ただ、意義としては、何か大変なんだよねというのを、本当に当事者の方から、こんな大変さがあるんだよ、こういうところをもっとこうしてほしいのというようなことをきちんと聞くということにフォーカスを当てようねというところが、この方針案に込められているので、その辺りのところは、結構皆さん、それが大事なのではないか、必要なのではないかなというふうなご意見であったかなというふうに思います。

今、グループでお聞きしましたが、何かそのほか、委員の皆様から、今の活動方針（案）等について、ご意見がございましたら、挙手をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○曾根副会長 曾根なのですけれども、まず、やっぱり地域移行を希望している人と出会うというところが一番のスタートラインだと思うのですけれども、やっぱりそこを把握するということの一つ入れていただけるといいのではないかなと思いました。

例えば私たちのところでは、向山課長の府中市が、入所している人に対して、地域移行の意向把握アンケート調査を全件行うということをされているのですよね。あと、品川区のほうでもやっています。

だから、そういった取組で、結果どういう状況なのかということを知るというのは、私は大事なことではないかなと思ひまして、把握された後に、なかなかそれが実際の地域移行に結びつきにくいという現状もあるということもお聞きしていますので、だから、そういった、まずは意向を持っている人を把握するということと、あと、把握した後に、どうやったら地域移行に結びつけることができるのかという、こういうところを少し課題を整理して、組み立てていただけないかなと思いました。

以上です。

○岩本会長 はい。ありがとうございます。今のご意見は、提案理由に入れるみたいな形でよろしいですか。提案理由。

○曾根副会長 いやいや、これをどうやって進めていくかということについて意見が欲しいということだったので、具体化すると、そういうふうと考えてはどうかという。

○岩本会長 なるほど、じゃあ、そういう意識を持ってということで、この方針の文言を変えるとか、そういうことではない。

○曾根副会長 いや、違います。

○岩本会長 はい。分かりました。

すごく大事だと思います。例えば地域移行支援事業になる前の、本当になかなか聞こえてこない声をどういうふうにキャッチするかというのが、多分どこの自治体でも言われているところかなというふうに思いました。

今、曾根副会長がおっしゃった、各自治体では希望調査なども行っていたり、あと、動機づけ支援ということで、病院等に行って、まずそこで交流しながら、いろんな交流、意見を聞いたり、声を聞いたりというところも活動している自治体もあると思いますので、そういったことからきちんと把握しておくということを、ここでしっかり共有できればと思います。ありがとうございました。

あとはいかがでしょうか。

年間のスケジュールにして、本当に忙しい感じなのですが、これはあくまでもツールなので、これを使って、どういうふうにこの協議会のテーマや活動方針を進めていくかということになるかと思います。

また、それぞれの活動がばらばらではなく、どのように結びつけて、連動させていくかというところを後半のグループディスカッションでもご協議いただきたいと思います。今、ご説明、ご提案いただきました令和6年度、今年度の活動方針は、このご提案のとおりということによろしいでしょうか。

(異議なし)

○岩本会長 はい、ありがとうございます。では、確定ということで、このように進めさせていただきたいと思います。

それでは、二つ目の協議事項について、事務局からご説明をお願いいたします。

○外川課長 二つ目の協議事項は、自立支援協議会担当者連絡会の活用についてでございます。

資料7、自立支援協議会担当者連絡会の活用についてをご覧ください。

令和5年度、昨年度は、東京都自立支援協議会設置要綱にある協議事項などを踏まえながら、第1回目の担当者連絡会では、動向集の調査結果の報告とともに、行政説明、そして、地域協議会が進めている先進的取組を共有するという機会を設け、第2回目の担当者連絡会では、話題提供とともに、先進的取組を行っている地域協議会からの発表をお願いいたしまして、最後に、交流会を行った後に、地域に持ち帰ったものが、その後どのように活用されているかなどを、参加した自治体の方からそれぞれ一言ずつですけれども、発表してもらうという機会とさせていただいております。

昨年度は初めての取組ということもありまして、事務局のほうで、先進的取組をしている地域協議会などについてを、このお手元に配付させていただいた動向集からまさにピックアップいたしまして、そこで予定などを調整して、事務局のほうで全てやってきたようなところがあります。

この1年間の流れも出てきましたので、先ほどの年間計画の中にも位置づけましたけれども、ぜひこの担当者連絡会を、今年はツールの一つとして活用を皆さんにさせていただきたいなということを思っておりまして、どういうふうに活用するかということなのですけれども、都協議会の設置要綱にある協議事項に関連して、話を聞いてみたい先進的な取組であるとか、これはちょっと面白そうだなという取組を地域協議会ごとに回答していただいた、この動向集の中からピックアップしていただく形での協力をお願いしたいというふうに考えております。

第1回連絡会までのスケジュールについては、6月19日までにグループリーダーの皆様を中心にして、メーリングリストを活用して、意見集約などをお願いできればというふうに考え

ております。

事務局からの説明は以上になります。

○岩本会長 ありがとうございます。

昨年度、試行的に事務局のほうにご尽力いただいて、こういった連絡会が開催されたわけですが、非常にこの協議会のいろんな活動をつなぐ、あるいは地域の協議会をつなぐ機能としてとてもよかったなというふうな印象を持っております。

今ご説明いただきましたように、委員の皆様の意見も挙げていただきながら、これをうまく活用したいというようなご提案だったと思います。

今のご説明について、何かご意見、ご質問等はございますでしょうか。

ちなみに昨年度の参加自治体というか、大体の数で結構なのですけれども、ごめんなさい、急で。後で。すみません。ごめんなさい。

結構多くの自治体が。

○外川課長 発表された自治体は、国分寺市と世田谷区です。

○岩本会長 オンラインでということで、非常に参加者も多かったということを感じて。

○外川課長 それと、1回目の連絡会で、八丈町とか、島嶼部の方にも参加していただけたりと、そういうきっかけになりました。

あと、交流会の後にやった第2回の自立支援協議会担当者連絡会では、このピンクの動向集の311ページに実は出ていました。

47名とか、43名とかということで、区とか市にすると、12区、18市、1町であるとか、12区、11市であるとかという形で来ていますので、交流会の後、地域の協議会の皆さんも、結構、会議で報告しましたとか、今日もお手元にあるかもしれないですが、イエローカードを少し使ってみましたとか、そういう工夫を、すぐやれることということで持ち帰っていただいたんですけれども、工夫をしていただけたら、よかったなという感触がありまして、これをぜひ今度は委員の皆様にツールとして使っていただいて、この動向集からピックアップしていただくような形で、地域の協議会さんが頑張っているところに、光を当てていくといえますか、その中で活性化をしていきたいなという思いがございます。

以上です。

○岩本会長 すみません。ありがとうございます。

具体的にこの連絡会で、こういうテーマで、こういう人に話してもらったらどうかというのは、これから1週間ちょっとかけて、メーリングリスト等でご意見をいただける期間を設けていただいておりますので、今出してくださいということではないのですけれども、この連絡会の活用について、何かご意見があったら、ご発言いただきたいと思います。

○外川課長 補足ですけど、今回、ICTの活用というのも指標として入ってしまして、港区では、遠隔操作ロボットを使って、委員の方に参加していただいているとか、思ったよりもそういうものを使っているところもあるんだなという感触があったり、あるいは先ほどご紹介いたしました、当事者参加が結構いろんな自治体で工夫されていまして、その工夫の仕方であるとか、あるいは当事者委員の方が退任された後の後継者をなかなか見つけづらいというような、そういうご苦労のお話であったりとか、コメントとしても出てきていますので、ぜひそういうところにもスポットを当てていただきたいなという感じはしています。

○岩本会長 はい、ありがとうございます。

この連絡会の活用については、特に異論はないというふうに思いますけれども、これはオンラインなので、ぜひ委員の皆様、任意ではあるけれども、お時間があれば、どんな感じか一緒に聞いていただけるといいかなと思いますし、皆様が活動している自治体の事務局のほうにも、ぜひこういうのがあるので、いろんな自治体の話が聞けるからということで、参加を進めていただければと思います。

では、この件についてはよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

それでは続いて、三つ目の協議事項のご説明をお願いいたします。

○外川課長 三つ目の協議事項ですけれども、今年度の地域自立支援協議会交流会の企画についてでございます。資料8の地域自立支援協議会交流会の企画についてをご覧ください。

昨年度の第2回本会議において、東京都自立支援協議会の活動について知ってもらう機会を持ちたいなどの意見がございました。

また、令和5年度に行った交流会においては、自立支援協議会の活性化については、大分意見をいただいたように思っておりまして、さらに交流会で持ち帰ったものについても、その後、地域でどのように活用されているかということを引き続きフォローする必要があるかというふうに考えております。

そこで、今年度の交流会では、一つは、当事者の主体的な参画をどういうふうに進めているかというようなところに焦点を当てて、事務局のほうからは、当協議会の活動や、当事者の参画を進めてきた経緯などを説明し、また、区市町村の当事者参画という意味では、動向集からも少しピックアップをさせていただいて、地域協議会における当事者参画の工夫例などを紹介していきたいと思っております。

その後、今年の交流会では、秋元副会長、そして、小阪委員から当事者参画についての意義であるとか、思いというものをフロアに投げかけていただいて、都協議会の当事者委員である高橋委員と藤井委員からは、地域移行や地域生活支援に関する思いであるとか、将来の夢であるとか、そういうものを率直に語ってもらうような機会として、話題提供をしてもらったらどうかというふうに考えております。

また、交流会後の協議会担当者連絡会を活用して、その交流会で持ち帰ったものが、その後どのように取り組んでいるかというようなフォローをするということと、今年はもうちょっと踏み込んで、この動向集で、今年、協議会が活性化したかとか、活性化しましたかみたいな問いをつくってあるんですけれども、案といたしましては、交流会で立てた目標を活用してみて、例えばその活性化に役立ったとか、役立たないかとかというようなところの、もう一歩進んで、動向集のほうの活性化に向けた働きかけも、うちの都協議会もしておりますので、そうしたものを少し動向集も活用していくというようなことも、少し踏み込んで考えていけたらなというのが事務局からの協議事項の三つ目となります。

説明は以上です。

○岩本会長 ご説明ありがとうございました。

今年度の日程がもう決まっていますけれども、交流会の企画案ということでのご提案でございます。

すみません。ちょっと確認なのですが、これは協議会の活性化ということで、当事者参画をどのように進めていくといいかということを中心にお話しいただくということでよろしいでしょうか。

○外川課長 はい。

○岩本会長 すみません。グループ討議のところで、交流会の地域移行、地域生活支援についてどのようなお話を聞きたいかというものもあるのですが、そことの関連というのは。

交流会自体は、当事者参画というところに焦点を当てるということになりますでしょうか。

○外川課長 そうですね。そういうふうになりますね。

○岩本会長 その中で、もう一つのテーマにある地域移行について関連性があれば、ぜひご発言いただきたいというところです。ありがとうございます。

今のご説明、ご提案について、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

お名前の挙がっている秋元さん、小阪さん、高橋さん、藤井さん、何かご発言があれば、お

願いたいと思います。

○秋元副会長 秋元です。

多分これから詰めていくものだと思うんですけど、どこに焦点を当てていくのかというところで、私自身が課題だなと思っているところが、こういう施設や病院にいる人たちが、地域生活は大変だという思いのほうは結構強いんだというのがあって、先ほどの話のところで、アンケート調査、本人が地域移行をしたいかどうかというのを知ることとはもちろん大切だとは思いますが、その前の段階で、地域生活をしたら、こんな生活ができるんだよ、こんな社会資源があるからできるんだよということを、まず知らないという人たちのほうが大変だろうなと思っていて、その部分を、いろんな人たちに私は知ってほしいなという思いがあって、その部分をちょっと話せたらなというふうには個人的には思っております。

○岩本会長 ありがとうございます。

小阪委員、いかがでしょうか。

○小阪委員 ありがとうございます。

私自身は、事務局が提案してくれている内容に全然同意しているというか、恥ずかしながら、私も自立支援協議会って自分が委員になるまで知らなかったの、そういった障害をお持ちの方というのは多いんじゃないかと思うんですけど、一方で、例えば都の自立支援協議会の設置要綱では、障害児者が基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活または社会生活を営むことができる地域社会を構築するためという前置きがあるんですね。

これって、誰から見たときの基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活かということでは結構大事な気がしていて、僕は、主語はやっぱり障害当事者であるべきだと思うのですよね。

そうしたときに、支援者、あるいは関係者の代弁ではなくて、障害当事者自らが、私たちはこう思うのですということを発信していく必要性が、今後はより一層求められるのではないかなというふうに思っています。

以上です。

○岩本会長 ありがとうございます。

高橋委員、藤井委員、いかがでしょうか。

○藤井委員 はい。では、ちょっと藤井が代弁をします。

高橋委員は、今日のために、自分がこの先どういうふうに暮らしたいかというのをノートにきちんとまとめて書いてきてくださっていて、そこで、多分ほかの当事者の方もきっと気にするだろうなと思うことをいっぱい書いてきてくださったので、後でグループ討議の中でお話をしたいというふうに本人がおっしゃっています。よろしくお願いいたします。

○岩本会長 ありがとうございます。

今のお話を伺うと、ちょうど本当に地域移行や地域生活というところにおいて何が大事であるかとか、あるいはそこで、当事者から見た地域の暮らしという、そういった視点とか、自立支援協議会がどういう役割を担うのかというのが、ちょうどいい形でお話が聞けるのではないかなというふうに思いましたので、事務局のご提案いただいている当事者からのご発題というところのイメージが、ちょっと私も随分ついてきたなというところなんですけれども、少しその辺りをイメージしながら、この交流会の企画については、このご提案で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

また中身のところはグループ討議で、高橋さんもいろいろお話しただけということですので、もうちょっといろいろ皆さん、自由にご発言いただきたいと思いますけれども、この交流会については、資料8のとおりとさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、この後はグループ討議に行きますかね。では、グループ討議の進め方についての

ご説明をお願いいたします。

- 外川課長 それでは、これから副会長を中心としてグループ討議を行います。グループ討議では、近況報告などとともに、地域自立支援協議会交流会の中身内容であったりとか、東京都自立支援協議会セミナーに登壇していただきたい基調講演者の方や、発表者、これについては、障害当事者と、その支援者というようなことで、候補について出し合っていただければというふうに考えております。

グループ討議の進行につきましては、本日机上に配付させていただいている資料を参考としていただければというふうに思っております。

なお、グループ討議の間は非公開とさせていただきますので、傍聴の皆様は一旦退出をして、15時半になりましたら、再度ご入室をお願いしたいと思います。

それでは、グループ討議のほうをよろしくをお願いしたいと思います。

(グループ討議)

- 外川課長 それでは、15時半になりましたので、グループ討議はこれで終わりになります。

それでは、後半、全体報告の進行を岩本会長のほうにお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

- 岩本会長 はい。グループ討議で活発な意見交換をしていただけたかと思います。途中聞かせていただきながら、なかなか1か所のグループにずっといられないのがちょっと心残りというところもありましたけれども、ぜひグループごとに話し合った内容についてご報告いただきたいと思います。

ご報告の後、意見交換の時間も10分ほど設けておりますので、その時間もぜひご意見いただければと思います。

では、最初に曾根副会長のグループから、大体5分ぐらいで申し訳ないんですけども、ご報告をお願いいたします。

- 曾根副会長 では、キリンさんグループです。

まず、一貫して地域移行というようなテーマ設定で交流会セミナーというのを運営したらいいのではないかという意見がありました。やっぱり複数のテーマになると、去年も少し分散してしまって、話し合いができる時間が短くなってしまうというようなことがあるので、もうちょっと一つのテーマでじっくり話し合うというのはどうだろうかというようなご意見がありました。

それと、あと、やっぱり地域移行については、地域移行をしたいという人を把握するということがスタートラインになるので、アンケート調査とか、そういったことを行っている自治体もあるので、そういった取組を少し皆で共有するというのがいいのではないかというような意見と、あと、やっぱり精神科病院に入院している人の把握というのは特に難しいので、そういったところを行っているところの話を聞いてみたいというようなお話もありました。

それから、東京都が今度新たな補助事業を始めるというのは、さっき中山さんのほうからご報告があったんですけど、ぜひこれを交流会で大々的に宣伝していただいて、どんどんみんなに活用してもらえるようにしたらいいのではないかということで、ぜひそれはちょっと時間が短くても入れていただけないかなというふうに思いました。

それと、あと、都外施設に入所している人の場合、やっぱりそこまで行って、本人の希望を聞くということが、なかなか旅費の問題もあったりして、難しいという現実があって、そこでどういった工夫があるのかと。例えば、入所施設の近くの事業所をお願いするとか、あるいはその方の計画相談を立てている相談支援専門員は、多分多くの場合は入所施設の近くの相談員が担当していると思いますので、そういった工夫みたいなところも少し聞けるといいのではないかなというようなお話もありました。

あと、動機づけ支援というのが非常に大事というのは、やっぱりみんな共有できたところな

ので、そういったこと取組で、どういうことやっているかということもぜひ聞いてみたいと。大体こんな感じだったと思います。

それから、次に、セミナーなんですけれども、セミナーのほうは、その場合は少し精神分野の地域移行が結構難しいねというようなお話になりまして、精神科病院に今長期入院している人は、結構ご高齢の方が多いというようなことから、なかなかそういった様々な課題が、精神科病院の地域移行にはあるのではないかとというようなお話があり、この基調講演の人選というところでは、古屋龍太先生とか、元私の同僚の先生ですけれども、あとは、国の専門官とか、そういったお話もあったんですけれども、なかなかそれ以上具体的な候補というのは出せませんでした。

あとは、事業所の人ですね。特に地域移行をしている一般相談支援事業所とか、あと、地域生活を支えている自立生活援助、これもなかなかいろいろ課題があって難しいというお話もあって、そういった実際の支援者の人に、どういう課題があるか、地域移行に向けてどういう課題があるかとか、実際に地域移行した後も、地域生活支援でどういう課題があるかというのを話してもらって、その課題に対して、当事者の人がどう感じたかとか、どういった意見があるかというふうなことを聞いてみるというような組立てもいいのかというようなお話もありました。

あと、特に都心のほうは家賃が非常に高く、なかなかお家を借りて住めないというような事情があって、そこに対してどういうアプローチがあるのかということも話の中としては出ました。これはやっぱり東京都独特の課題だなというふうに思ってお聞きしました。

大体以上ですかね。よろしいでしょうか。大丈夫ですか。

はい。じゃあ、以上です。ありがとうございました。

○岩本会長　ご報告ありがとうございました。

続いて、クジラさんチームですかね。森山副会長、お願いします。

○森山副会長　施設、病院などにいる方が地域移行したいという意向をどのくらい地域の自立支援協議会が把握しているのか。それを何か調査する必要があるのではないかとということでした。やはりそういうふうな、さっきも動機づけとありましたが、本人の意向をどのように聞いていくのか。特に知的障害の人たちは、意思決定の前に形成というか、そういう体験ということから、いろいろな地域移行したいという意向を育てるということも大事だろうということが出ました。

アンケートの調査では、なかなか本人の意見が出ていないのではないかとというふうに見えました。

それから、こういう地域生活をするということというのはどういうことかというのは、精神のほうではピアサポーターがいると思うんですけど、どのくらい本人の意向とか、支援できるか、サポーターの力量とか、私が知っているピアサポーターは、もう疲れてしまって、やるのは嫌だというような人もいました。仕事がすごく多いということで、やはり何かこういう人たちの所得の保障とか、そういうことがあるといいなということでした。

施設、病院で安心、安全に暮らし、キープ、それがずっと続いているが、地域移行に、やはりこれも意思決定ですね。どのように向けていくか。地域にどういう資源、サポートがあるかということが、それが把握しづらいのではないかと話もありました。それをまたいろいろなところから聞いてみたいということでした。

施設の管理者が、割と地域で、地域に出す、地域移行を本人がするかどうかを把握していない。ニーズが分かっていない。もう出たくない、具体的に言うと。そういうようなところも見受けられるということで、直接的な支援者に聞くと、地域移行したい人はいるんだけど、なかなか施設の管理者とか、そういうところの人はなかなか吸い上げられない。それをまた脱していないということもあるのではないかとということでした。

地域生活の魅力ですね。毎年、毎年いろいろな地域生活での魅力を伝えてはいますよね。パネリスト等が、こんなことがあったとか、いろいろ自分の趣味のものを持ってきてくださったりすることもありますけど、やはり自由度とか、自己判断、自己決定でいろいろなことができるということをもう少し広めていってもいいのではないかということでした。

セミナーでは、登壇者のほうはまだこちらでも出ませんでした。ただ、そこは出なかったけれども、発表者というところで、仲田委員さんのほうで、こういう人がいるよというような発言があって、仲田委員は、身体の障害の人ですけど、施設からどういうふうに出ていくか。その準備をし、そしてまた、相談支援専門員がその後を引き続いて、設計されたということで、この連携というところにもやはり目を向けてみるのはどうかと思いました。

一人の支援者が担うのではなくて、そういう支援者同士の連携とかということにも着目してはどうかという意見が出ました。

以上です。

○岩本会長 ありがとうございます。

支援者の課題というのも出てくるんですけども、この組織のトップの考え方とか、そういうのも非常にやっぱり影響があるというふうに思います。精神科病院もそうだと思いますので、そういった視点も重要だなと思って伺っていました。ありがとうございます。

それでは、カピバラチームですかね。秋元副会長、お願いします。

○秋元副会長 カピバラチームです。

うちは、今回当事者でまとまったグループということで、当事者ならではの話ができたかなと思っています。

交流会についてですが、交流会は、どんなことを伝えたいかというところを具体的に話せたかなというふうに思います。いろいろ皆さんで話し合いをしながら、どんなことがあると、地域生活に持っていけるかなというところで、例えば生活だけではなくて、推し活のようなものがあると、大事ないいねとか、やっぱり自分のやりたいことを実現できるという、地域に出たら実現できるということが伝われば、出たいというふうになるのかなとか、あとは、自分の思っていることを口に出せる人はいいよねというところで、そういう環境にいるのかどうかというのもすごくキーかなというふうに思いました。

あとは、資源の情報の取り方ですね。地域生活をしたら、どんなサービスが使える、どういう生活に自分になっていくのかということを、施設や病院の人たちにはなかなか伝わっていかない。そこをどうやって伝えていくのかというところを考えてほしいよねということ。

あとは、やっぱり先ほども出ましたけれども、好きなことがあると、やっぱり地域に出て生活したいというところが強くなるかなと思います。

高橋さんが、すごくたくさんここではお話をしてくれて、こういう生活をしたい、音楽が家でできるというなとか、じゃあ、防音がある部屋じゃないと難しいねとか、そんな話もしたりして、そういうことをやっぱり具体的に支援する側の人を知っているというところが大事で、それを当事者から発信していくのが大事なんではないかということ、交流会の部分では話しました。

セミナーについてはうちのグループはちょっとぶっ飛んでいます。

まずは、今の制度が出来上がってきたのは、やっぱり昔の運動があったからだよねというところを話し合っていて、今はやっぱり運動をしなくなったよねという話から確か始まったのだと思います。

やっぱり昔、それこそ制度を何もなかった時代があって、それをこうやってきた人たちがいたからこそ今があるというので、昔の運動性をもって、やってきた人たちを呼んで、ディスカッションをしたらどうかというような意見が出ました。

具体的にはそこに名前が書かれているとおりのんですけど、これはできるかどうかは分から

ないですが、こんなふうなことがあったら、すごく面白いのではないかというか、昔の運動があって、今こういう制度ができて、じゃあ、次のステップとしてどうやっていくのかということまで持っていけたらなというような話をしていました。

以上です。

○岩本会長 ありがとうございます。具体的にお名前が挙がって、その当事者のところでは、優しいだけではなくて、厳しい。これはまたご意見ですかね。

○秋元副会長 これは、発表のところで、どういう支援があったら、地域生活が実現していくのかというところで、ただただ優しくサポートしてくれる人ではなくて、叱咤激励というか、そういうふうなサポートも必要というところも伝えていけたらいいのではないかという意見が出ました。

○岩本会長 はい。ありがとうございます。

ご報告ありがとうございました。それぞれのグループのディスカッションの内容を踏まえて、またちょっとここで皆さんからご意見とか、ご質問とかをいただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

クジラチームから、ピアサポーターの役割は非常に重要なものだけれども、ピアではあるけれども、ご本人ではない、異なる別の存在というようなところでは、どれだけご本人の意向を酌み取れるかというような、そういったお話とかもありましたが、ちょっとピアサポーターの視点からというところでは、ぜひ根間さんとか、小阪さんに何かそれについてコメントがあったらいただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○根間委員 ピアサポーターに関しては、私も2017年ぐらいから病院訪問の活動を、ずっと八王子でやっている活動に自分も参加し続けてきてつくづく思うのは、やっぱりピアサポーターの役割って、病院、施設もそうだと思うんですけど、当事者の方に働きかけることはもちろんなんですけれども、その当事者を支援してくださっている病院の方々の意識を変革するのにも、とても大きな力があるんだなというのを自分がやっていてすごく感じました。

病院の方々は、やっぱりとても一生懸命患者さんを守ってくださってはいるんですけど、当事者のお気持ちというのを、勝手にと言ったら失礼ですけど、この方はこれでいいんだよねみたいな見方で見ていらっしゃる方も結構いらして、確かに落ち着いて病棟生活をしていて、何の不満もないようにお暮らしなのかもしれないですけど、でも、実は心の奥底に、ここにずっといなきやいけないというのは、本当は諦めの思いで暮らしていらっしゃるというのが実情ではないかと、私自身も入院生活を経験して思うことなんですけど、そういう方々と私たちがお話をしているうちに、だんだん皆さんの表情だったり、いろんな点で患者さんが変わっていかれる様子を、それを見守っている看護師さんや、病院の職員さんが見ていて、あの方はこんな発言をなさるのね。びっくりしたわみたいなことをしばしばおっしゃられていて、「えっ!」と、逆に、こちらが驚いてしまったこともあるんですけど、その中で、病院の支援の方向性も多分少しずつ変わってきているのかなと思いますし、本当にこれは少しずつの小さな、小さな積み重ねの活動なんですけど、やっぱり続けていくことに本当に意味があると思うし、だんだんピアを受け入れる病院も増えてきているので、私の活動している八王子は、とても病院の多い地域なので、できれば全部の病院さんとそういう関係を持ちたいなと思っておりませんが、多分長い道のりにはなと思うのですけれども。

そういう点で、ピアの意味というのは本当に大きいと思うんですけど、さっきどなたかが言ってくださったように、ピアって数が足りなくて、やっぱり毎月何回も何回も行っているとやっぱり疲れますよね。疲れる割に、交通費、プラスアルファぐらいしか頂けるものはなくて、やっぱりもうちょっと所得保障の面でも、ピアさんたちに保障していただける制度があるというというのが本当のところですね。

私どものように、仕事としてピアという活動ができるものばかりではございませんので、自

分の体調と合わせながら活動している方が多くいらっしゃるの、本当にピアが有効だというのであれば審議会とかでも、所得保障を検討していただきたいです。

ピアサポートをやっていると、私はB型にもいるんですけど、B型のほうでも、一定の研修を受けた人たちのピアがいるところでは、それは加算の対象になるよというので、それはとてもありがたいんですけども、そこをもうちょっとピアさん自身に対しても何らかの見返りが欲しいなというのは常々考えているところです。

ちょっと長くなりました。小阪さん。

○岩本会長 ありがとうございます。

小阪さんにも伺いたいですけれども、まさに個別支援策ではなくて、病棟という文化を変える力というところも非常に大きいのではないかとこのところですよ。はい。ありがとうございます。

小阪さんにも今のお話を伺いたいですし、小阪さんも地域の、荒川区でしたっけ。結構病棟に訪問に行ったり、お手紙を書いたりとか、何かそういう動機づけ支援につながるようなこともお聞きしたことがあるので、それも併せてご発言いただけますか。

○小阪委員 荒川区の自立支援協議会は多分平成29年頃からだったと思うんですけども、チーム荒川区というのを立ち上げまして、地域移行部会が多分同時期に立ち上がって、近隣の病院の長期入院者の方の実態調査を行うということから始めたんですね。

会に行きたいんですというお手紙を出して、病院側がオーケーを出してくれた人のところに会いに行くという取組なので、全員にお会いすることはできないんですけども、そうやって、その活動を続けていく中で、お会いした人たちについては、暑中見舞いと年賀状を毎年出すという活動を地域移行部会として続けているという形ですね。

最初のピアサポーターがどこまで本人に寄り添えるかとか、本人の理解をどこまでできるかというお話があったと思うんですけど、正直言ってしまえば、ピアサポーターも非常に難しいところがあって、本人になり代わることができないので、ただ、共感性は高いところはあって、まさに当事者ならではの当事者支援というのは起き得るんですけど、本人のことを私たちは理解できていると思っているピアサポーターがいたら、それはちょっと危ないなと僕は思うんですよ。

そうではなくて、謙虚で、あくまでも本人中心、本人のための人生を、例えばロールモデルとかという形で、ピアサポート的な支援で、今までにはない支援を提供する中で、リカバリーを応援していくピアサポーターであってほしいなと思うのと、根間さんのお話であったとおり、すごく共感しているところが、いわゆる当事者の方の支援だけではなくて、地域の地域援助者とか、病院の職員とかに対して、当事者であるピアサポーターは非常に有効に作用すると僕も思っています。

どうしても支援者と、支援を受ける側の立場性の中では、支援を受ける立場の人が何かを言っていると、クレーム的な扱いになってしまうと思うんですけど、ピアサポーターが支援者に何か言うときというのは、基本的にアサーションに伝えることが多いと思うんですよ。嫌なことは嫌なんですけど、その嫌なことを伝える伝え方も工夫されるでしょうし、あるいは、嫌なことだけを伝えるのではなくて、あなたの支援のこういうところがいいわというところを還元できるというか、直接利用者さんからお礼を言われる経験って、実は支援者って少ないと思うんですよ。辛いことのほうが多い気がしていて、そうではなくて、お礼を言われることで、やる気を出してくれる部分もきっとあるかなというふうに聞いてました。

すみません、長くなりました。

○岩本会長 根間さん、小阪さん、ありがとうございました。いろいろテーマにもつながるようなお話だったと思います

ほかに何か全体でご発言いただける方がいらっしゃったら、ぜひお願いしたいと思います。

グループでは活発なのですけど。

1点、すみません。今回は地域移行や地域生活支援で非常に課題になっていること、やっぱりその困難性みたいなところにフォーカスを当てるといったところだったのですけれども、先ほど、どちらでしたっけ。キリンさんチームから、なかなかやはり今大変なのだよというところに当事者の登壇というのはちょっと難しい。支援者が何かこういうところがという、支援者の登壇というのは具体的にちょっとイメージできるのだけだというお話がありました。

ただ一方で、協議会としては、当事者から見た課題なので、支援者が大変だということだけではという中で、キリンさんチームは、支援者が課題を発言しながら、それを当事者の立場から、それはどうなのだというような意見とか評価をしてもらうというようなアイデアを出していただいたのですけれども、ちょっとそういった形もあるかなと思うのですけれども、それに関して何かご意見があったらいただければなと。

ほかのところはどうしてもやっぱりうまくいったり、楽しかったりという、それもすごく大事なのですけれども、それも併せて、やはり困難性というところの具体的な進め方というアイデアなのですが、何かそれに関してご意見があったら、ぜひいただきたいと思いますが、いかがですか。

当事者のグループで、今の意見で何かありますか。

○秋元副会長 そうですね。やっぱり支援者から見た困難と、当事者から見た困難と、その違いってかなりあると思うのですよね。

病院からの自立支援を私は何人かやったんですけど、結構職員の方は、こういうことがあるから無理とか、難しいとかと言うんだけど、こっちからしたら、え、そのところは全然大丈夫。逆に、それこそ今までずっと病院とか施設で、なかなか社会との接点がなかったりとか、そういうところをどういうふうに埋め合わせていくかというところのほうが重要というところで、見ている方向が違うというか、困難さって思っている部分が違うということが結構あるなというのを私自身はすごく感じています。

なので、なかなか施設の職員の方は、地域での資源というのを全く知らなかったりとか、実際に自立生活をしている人のことを知らなかったりとかするので、それこそ先ほど根間さんも言われましたけど、病院や施設の人の気持ちを変えんというか、そういうことをしていかないと難しくて、だから、見ている困難さが違うんですよね。そのところを、じゃあ、どうやって伝えていくのかというところが必要なのかなというふうに思いました。

○岩本会長 ありがとうございます。その見ている困難性が違うのですよねというのを、何かセミナーで伝えるということは可能ですかね。

○秋元副会長 そこをどうやって伝えていくかですよね。例えばこういう事例がありましたというって、例えば支援者の側から、こういったのは、こういうところが難しいと思いますと。例えば私からしたら、いや、そこではなくて、ここなのですよねというところを言い合っていくのか、どうなのかというところなのですけど。すみません。あまり答えになっていなくて。

○岩本会長 ありがとうございます。多分秋元さんは実践の中で、その方のご存じで、支援者が見ているのと、こちらから見ると違いますよということはあるけれど、では、そういうセミナーのような場所で、どのように伝えられるかというところは、また少し検討しなければ難しいところもあるかもしれないということですよ。ありがとうございます

ちょっと時間が来てしまったのですけれども、いろいろアイデアを出していただけたので、今日、皆様にご承認いただいた今年度の活動計画ですね。それに基づいて、今、交流会、セミナーはこういう形がいいのではないかとということを出していただきました。

ただ、今のお話もそうなのですけれど、もう少し可能であれば、メーリングリスト等でもご意見を出していただけるとありがたいというふうには思っています。

また、オンラインの連絡会ですけれども、連絡会でこういうことを話し合ったらどうか、こ

ういう人に話してもらったらどうかということも、今日から１９日までの間に、ぜひメーリングリストで挙げてくださいということなので、皆さん、本当にお忙しいと思うのですが、今日のこの協議をちょっと冷めないうちに、何か思うところがあったら、挙げていただきたいと思います。

すみません。ちょっとまとめにはなってないのですが、皆さんからいろいろご意見いただきましたので、それを受けて、今年度の活動を続けていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、進行を事務局にお戻ししたいと思います。

○外川課長 皆さん、貴重なご意見をありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

昨年を思い起こせば、担当者連絡会第２回で報告していただいた実態ですが、国分寺市さんと世田谷区さんでした。精神障害の地域移行ということで、発表をお願いしたということがございました。

幾つかそのほかにも候補者に電話をかけてアプローチしたこともありましたが、ぜひ動向集を皆さんに見ていただいて、いろんな発見だとか、気づきだとか、何かやっぱりお願いすると、その区では当たり前のようにやっていたことが、実はほかの区市から見ると、少し参考になるのかなみたいな、地域の協議会さんの気づきみたいなところもございまして、ぜひそういうところでもつながりといいますか、いろんなところで、この取組はいいなというところを皆さんにも発掘をしていただいて、連絡会のほうでも反映させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、連絡事項になります。資料については机上に置いたままにしていいただければ、事務局から郵送させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、本日お車でお越しの委員の方には、駐車券をお渡しいたしますので、事務局のほうにお声かけください。

それでは、名残惜しいのですが、これを持ちまして本日の本会議を終了させていただきます。引き続きメーリングリストでのご協力をお願いしたいと思います。貴重なご意見をありがとうございました。お疲れさまでした。

(午後４時０２分 閉会)